

図書館だより 6月平和週間号

豊中市立第十七中学校 2026年6月24日発行



十七中の平和週間： 6月22日（月）～6月26日（金）

6月23日は「沖縄慰霊の日」です。当校は創立記念日となりますが、「朝読書」の時間

に平和学習に取り組んでいます。図書館では「戦争と平和」に関する本を展示して

います。ぜひ、手に取って読んでみてください。

戦争と平和について考える本

210キ

『記者がたどる戦争』

北海道新聞社/編 北海道新聞社

この本は、20代や30代の記者たちが、80年前の戦争と向き合い、親族などの話を聞くだけでなく、資料を調べて、専門家に話を聞いたり、資料館や博物館に行ったりして、くわしく取材しています。そのため、親族の話ではあるけれど、多くの人に伝わる大切な記録としてまとめられています。また、「調べても分からなかったこと」も正直に書かれているところが、この本の特徴です。『北海道新聞』のシリーズ企画「私たちの平和論」のうち、「記者がたどる戦争」を中心に記事をまとめたものです。

210マ

『子どもも兵士になった 沖縄・三中学徒隊の戦後』

真鍋 和子/著 童心社

ひたすら勉強して、北部一帯の人たちの誇りである沖縄県立第三中学校に入学した平之は、軍事教練や勤労動員ばかりで、勉強が少ししかできないため、もっと勉強したいという思いを募らせていました。しかし、1944年10月、沖縄全島でアメリカ軍の攻撃が一齐に行われ、沖縄が本当に戦争に巻き込まれることを実感することになります。防衛招集が可能な十四歳以上の生徒は学徒兵となり、三年生の平之も第一護郷隊に配属され、情報収集の担当として戦地へ向かうこととなります。沖縄北部の山岳部で最前線に立たされた少年兵たちの過酷な体験を描いたものです。

219ワ

『ひめゆり学徒だった山内祐子さんが沖縄の高校生に伝えたこと』

渡辺 考/著 講談社

81年前の沖縄戦では、14歳以上の若者たちが最前線の戦場に行かされました。その中には、陸軍病院で看護をするために「ひめゆり学徒隊」として戦場に送られた人たちもいました。この本では、ひめゆり学徒隊として最前線に行った山内祐子さんに、沖縄県立向陽高校の女子生徒たちが沖縄戦の体験を聞いています。生徒たちは、その話を聞く中で「自分たちにつがれたバトンとは何か」を考えました。

914コ 『わたしが戦場にいる』

こてまり ちよ かいせいしゃ
小手鞠 るい/著 偕成社

こてまり
小手鞠さんは、アメリカで生活して初めて、戦争が人々の生活や
じんせい ふか かが
人生と深く関わっていることを知りました。また、日本は集団的
じえいけん も
自衛権を持っていますが、アメリカの戦争の影響から逃れることは
できないと実感しました。ただ祈っているだけでは、平和は実現し
ません。戦争文学を読むと、「自分が戦場にいるような体験」をする
ことができます。そうした体験を通して、戦場にいるからこそ見えて
くる平和の大切さがあります。この本では、著者自身の作品に加えて、
よしゆきじゅんのすけ こまつさきょう さっか せんそうぶんがく と あ せんそう
吉行淳之介や小松左京などの作家の戦争文学を取り上げ、戦争について
つた
伝えています。

916ワ 『私の八月十五日二〇四人の証言』

ふうか せんそう きおく
風化させない！ 戦争の記憶』

ろうどく しゅうろく じっこういんかい へん いまじんしゃ
8・15朗読・収録プロジェクト実行委員会/編 今人舎

この本は、戦争が終わってから80年（2025年）という節目に、
「戦争を忘れないことの大切さ」を考えるために作られました。今の
日本では、ほとんどの人が戦後に生まれていて、戦争を実際に知らない
ひと おお
人が多くなっています。この本では1945年8月15日（終戦の日）に、
ひとひと なに
人々がどこで何をして、どんなことを考えていたのかを紹介しています。
し
それを知ること、平和がどれだけ大切かを改めて考えることができます。

E 『赤い日 じいちゃんの見た戦争』

ながた しんさく さく ちょうぶんしゃ
長田 真作/作 汐文社

ある日、りゅういちさんのもとに「赤い紙」が届き、
ひろしまなんぶ くれ い
広島南部の呉へ行くことになります。呉は日本海軍の
じゅうようきょてん
重要拠点だったため、1945年7月1日に空爆を受け
ました。激しい爆撃の中、りゅういちさんは必死に
こうじょう に だ い の
工場から逃げ出し、生き延びます。8月6日の原爆投下後は軍の命令により
しな い きゅうえんかつどう おこな
市内で救援活動を行いました。そして故郷の島根へ歩いて帰る途中、食べ物
もなく絶望の日々の中で力尽きてしまい、意識が遠のくとき、亡くなった友
の姿を見ました。作者が「呉空襲」に巻き込まれた祖父の話から生まれた
えほん
絵本です。

E の 『野ばら』

おがわ みめい ぶん え きん ほししゃ
小川 未明/文 淵（ぶち）/絵 金の星社

大きな国と小さな国の国境で、それぞれ一人の兵士が見張りを
していました。老人と青年の二人はやがて親しくなります。
しかし、両国が戦争を始め、二人は敵同士になってしまいます。
そのとき、二人はどんな選択をするのでしょうか。